



ながの環境パートナーシップ会議  
令和4年度活動成果報告書

# 手をむすんで



\ようこそ/

ながの環境  
パートナーシップ会議へ

ながの環境パートナーシップ会議は、  
市民・事業者・行政の三者が  
連携協働し、様々な環境保全活動を  
進めていく組織です。

ながの環境パートナーシップ会議



# SDGs

## の達成に向け

### ながの環境パートナーシップ会議は

### 環境保全活動を推進していきます

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2015(平成27)年9月に、ニューヨークで開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、人間や地球の繁栄のため2030年までに達成すべき行動計画として掲げたものです。この目標が「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals 略して SDGs(エスディーゼズ))」であり、これまでのアジェンダ21やミレニアム開発目標(MDGs)などの理念と成果を土台に、豊かさを追求しながら地球を守ることを呼びかける17の目標と169の行動計画で構成され、「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境問題と経済発展を両軸に、先進国、発展途上国を含めた全ての国々に持続可能な世界に向けての変革を求めています。

これを受け、日本では、2016(平成28)年5月に、「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部」を設置し、同年12月には、実施指針を決定しています。実施指針では、「持続可能な強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の総合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンに掲げ、政府が市民・事業者・NPO法人・行政と協力してSDGsの推進に取り組むことを示しました。

ながの環境パートナーシップ会議では、「アジェンダ21ながの一環境行動計画」による環境保全の活動を実施していくとともに、このSDGsの目標達成に寄与するよう、市民・事業者・行政が協働して、地域から地球規模につながる環境保全活動を推進していきます。



## 令和4年度活動成果報告書の発行に寄せて



1992(平成4)年、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた「地球サミット(環境と開発に関する国連会議)」で、持続可能な発展のための人類の環境行動計画「アジェンダ21」が採択されました。これを受けて地域行動計画「ローカルアジェンダ」作りが行われ、長野市では2003(平成15)年に、ながの環境パートナーシップ会議と協働で「アジェンダ21ながの一環境行動計画」を策定し、市民・事業者・行政の協働により地域の環境保全活動を進めています。

地球環境問題は、1997年「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」、さらには2015年の温室効果ガス削減に関する国際的取り組み「国連気候変動枠組条約締結会議(COP)」通称パリ協定という国際的な枠組での活動となっています。同時に、2015年9月「国連持続可能な開発サミット」が開催され150を超える加盟国首脳に参加のもと「我々の世界を変革する：持続可能なための2030アジェンダ」SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)2030年に達成すべき目標」として掲げられました。私たちは、地球環境と未来の社会を次の世代に繋いでゆくために、持続可能な社会構築の指針となるSDGsを意識してプロジェクト活動に取り組んでまいります。

CO<sub>2</sub>など温室効果ガス排出量の増大は、地球温暖化の加速による気候変動が集中豪雨や氷河融解、熱波による森林火災や干ばつなどを引き起こし、居住地焼失、農地荒廃さらには生態系異常をもたらし、食料不足、コロナ禍などから私たちの生活基盤を崩壊させ、貧富の拡大など災いの元となっています。そこで、温室効果ガス排出量を減らすため化石エネルギーからの脱却、再生可能エネルギーへの変換、生態系にやさしい農業などは急務です。

しかし、格差、暴動、侵略戦争などによる世界情勢の変化が化石エネルギーからの脱却を遅らせ、温暖化による異常気象が世界中で洪水や山火事を頻発させているのが現状です。「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した。」とは国連事務総長グテーレスの言葉<sup>\*</sup>です。沸騰化は始まっているのか。沸騰したら地球は終わりです。地球規模の分配、調整、秩序が求められ、地球環境を地域市民目線で考える時です。気候正義、エネルギー正義、市民正義これらを纏めて地球環境正義と、私は呼んでいます。

一人ひとりが、科学的データによる知見や予測は知らされて頭では理解できても、感情や精神が働かなくては行動に結びつきません。そこで、例えば、マイクロプラスチック問題の第一歩は、プラスチック製品(以下プラ製品)のリサイクルをはじめ、今あるプラ製品をなるべく長く使い新たな使用を少なくする。また、プラ袋を紙袋に換える新聞紙で手作りすることで日々の生活になるべくプラ製品を選択しない道を急がず実行すること。このように生活の質を変革し地域市民に根差すように取り組むことで、市民性を目標にネットワークを広げ納得感を合意形成(共有)することです。

私は、気候市民会議を長野市で開催することを提案します。

今、身近な生活スタイルを見直すために、小学生から高齢者まで身近な環境問題を次世代が生き抜くために、何を選択し何が実行できるかの足掛かりになると思います。

「敵は自分自身にある」と考え、節電・節水・省エネ・資源循環・食品ロス減少など日々の実践が大切なのではないのでしょうか。ながの環境パートナーシップ会議では、小生物の保護育成、森づくり、里山の保全、生ごみの堆肥化など自然と人が共存できる環境保全活動を実践しながら取り組んでいます。環境先進都市づくりの一翼を担うながの環境パートナーシップ会議の活動を市民に知っていただき、より多くの市民・事業者・行政の方々に参加いただきたく発行いたします。

※2023年7月27日、国連本部での #世界気象機関 #WMO の報告書

令和5年9月  
ながの環境パートナーシップ会議  
代表理事 河西 弘明

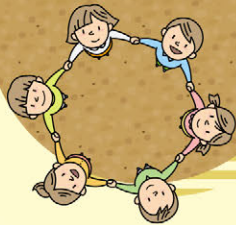
活動成果報告書の発行に寄せて（代表理事あいさつ）	1
ながの環境パートナーシップ会議の概要	2
アジェンダ21とながの環境パートナーシップ会議	3
令和4年度（2022）年度活動報告	
ごみ削減・再生利用プロジェクト	4
松代オオムラサキの里	6
ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	8
田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト	10
信州大学工学部「地域環境演習」における活動報告	12
公開学習会開催報告	14
ながの環境パートナーシップ会議が変わります！	15
プロジェクトサポーター&賛助会員制度の紹介	16
長野市地球温暖化防止活動推進センターからのお知らせ	

# ながの環境パートナーシップ会議の 活動を紹介します

ながの環境パートナーシップ会議は、市民・事業者・行政が連携し、長野市環境基本計画を推進するための組織として、平成13年6月に設立。

「アジェンダ20ながの一環境行動計画」に基づき、「長野市環境ビジョン」の実現に向け、「つなぐ」「伝える」「実践する」を念頭に、各プロジェクトチームが環境保全活動に取り組んでいるほか、各種団体事業を支援しています。

## つなぐ



本会会員やより多くの団体とのつながりを強化するため、総会の開催及び各種団体の活動を支援しています。

## 伝える



本会の活動を広く情報発信するため、主催事業の開催や他団体のイベントに参加しています。

## 実践する



各プロジェクトチームが様々な環境保全活動を実施しています。





# アジェンダ21と ながの環境パートナーシップ会議

## ▶ アジェンダ21 ってなに？

「アジェンダ (Agenda)」は日本語で「課題」、つまり、「アジェンダ21」で「21世紀への課題」という意味です。

1992 (平成4) 年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミット (環境と開発に関する国連会議) で、21世紀に向けて持続可能な発展のための人類の行動計画である「アジェンダ21」が採択されました。

これまで、私たちは大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムの中で、今日の豊かな社会を築いてきました。しかし、その一方で、地球温暖化、オゾン層の破壊などの地球規模の環境問題や資源の枯渇といった、人類の生存に関わる問題を引き起こしてきました。この「アジェンダ21」では、これらの問題に対処し、持続可能な社会を実現するための国際機関、国、国民、事業者など様々な立場の人々が取るべき行動として40の分野、1,000以上の行動が示されています。

また、持続可能な社会を実現する鍵が地域にあるという考えから、国連が世界中の地方自治体に対して地域版のアジェンダ21、すなわち「ローカルアジェンダ21」の策定を求めることとなったのです。



## ▶ 「アジェンダ21ながの」を実行するながの環境パートナーシップ会議

ながの環境パートナーシップ会議は、長野市とともに長野市版ローカルアジェンダ21である「アジェンダ21ながの一環境行動計画」を策定、これに併せて自然と人間の共存を軸に本市の理想の環境像を描いた「長野市環境ビジョン」も決めました。

本会は、アジェンダ21ながのや環境ビジョンを実現する組織として複数のプロジェクト活動を推進しています。



### ◎長野市環境ビジョン

山にみどり・川に清流・谷に風・空に星  
自然と和して発展するまち・人のくらし  
みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

豊かな山々には人の手が入り、林は清冽な水を生み、里山、田畑、水辺には多くの生き物が息づいて、豊かな恵みを与えてくれる。

まちには、木々が茂る安らぎの空間、水が流れる潤いの空間、すがすがしい風のなかを、人々がゆったりと安心して行き交う空間、自然に調和した街並みがある。そこに、地球の恵みを大切にしている市民のくらしがある。

長野の環境を保全、復元、創造し、未来に引き継いでいこうと、ともに知恵を絞り、汗を流す多くの市民がいる。そして、市民の行動を支える仕組みがある。





# 生ごみ削減・再生利用プロジェクト



## 削減の活動を広げる 生ごみチームとキッズ生ごみ農園クラブ

令和4年度(2022年)の生ごみ削減の啓蒙活動は、前期にて住民自治協議会と長野市の協力で生ごみ堆肥化講座を安茂里と若槻の支所で開き、地域住民と共に信州大学工学部の学生4名も地域環境演習Ⅰの学習として参加しました。そして再生利用の実践活動は、キッズ生ごみ農園クラブが7年目に入り3年以上継続される会員と新規会員や賛助会員の日本無線㈱さんが、身近な環境問題である生ごみ削減に協力的で、ミミズコンポストにはエサとなる生ごみがいつも切らずある状態です。お子さんを連れて参加される親御さんは、有機・無農薬栽培の価値を理解し、地域で命を育む健康な作物を共に作る喜びを感じて頂けてるのだと思います。

農場では、これまでに培った固定種(在来種)の採種、播種・育苗を行います。ナス・トマト・キュウリなどの夏野菜と麦類(ライ小麦・大麦・もち麦)豆類(枝豆・大豆・黒小豆・インゲン)瓜類(西瓜・南瓜・マクワウリ)を育て種を採っています。農園で挑戦している50種以上の作物栽培は、一年を通して耕運、肥料作り、施肥、草取り、麦踏みなど忙しいのですが、収穫祭や納豆作りなどのイベントを通して年中活動しています。

会員による生ごみの持参と堆肥化で減らす生ごみの量は、長野市全体から見ればほんの僅かですが、こうした地道な実践活動が生ごみは可燃ごみとして出すものでなく野菜などを育てる資源として有効活用できること、そしてその生ごみ堆肥で育てた野菜が、美味しいことをより多くの市民に知っていただきたいと思います。

主な私たちの活動を紹介します



ジャガイモ掘り



草取り作業

### 夏の収穫祭 農場で実施

7月23日家族会員の親子32名と学生4名の参加によりキタアカリと男爵ジャガイモ約500kgを収穫しました。来場者は生ごみ一人1kg以上を持参し1.6m×1.6m深さ30cmのミミズコンポストに投入します。中には約12,000匹のシマミミズが生ごみを食べて堆肥にしてくれています。

会員には、その堆肥を使って育てたジャガイモ7~8kgとナス・キュウリ・スイカ・マクワウリなどの夏野菜をニコニコ顔で持ち帰っていただきました。大地の恵みが生ごみの循環で育つことを実感する瞬間でした。

### 親子で色々な農業体験

キッズ生ごみ農園では、ミミズコンポストが大活躍です。会員は、ミミズのエサとなる生ごみを持って農場に来ます。ミミズの糞は良質な堆肥になります。親子で種まき、施肥や草取り作業もして収穫です。

玉ねぎ、ジャガイモ、大根の収穫祭やランチ会など作業の合間に楽しんでいます。



生ごみをミミズコンポストに投入



堆肥をふるい掛け



### 若槻自治協主催の生ごみ減量講座

7月24日、環境部員を中心に男女25名が参加、「生ごみを減らして食と土の循環」をテーマに生ごみ堆肥化について行いました。生ごみ発酵基材ピタピー5の説明や専用段ボール箱の組み立てを実習、堆肥作りのコツとその堆肥を使った花や野菜の育て方など資料を配布して説明しました。ある女性は、先ずは余分に買わず、無駄なく食材使い切ることを心掛ける。そして、生ごみ堆肥で育てたコンテナのサラダ菜を見せて、家庭菜園がなくてもベランダでもキッチンでも育てることが出来ると紹介されました。





## アモーレフェスタで野菜の販売

安茂里自治協主催のアモーレフェスタに参加。裾花中学のマーチングバンドやありくま劇団による歌とトークショーの賑わいの中で、展示と出店をし「生ごみを減らす活かす」の看板やのぼり旗を掲げ、チラシを配布して生ごみ削減を呼びかけました。キッズ生ごみ農園で生ごみ堆肥を作って育てた、大根・菊芋・もち麦などの有機無農薬野菜の販売は年々人気が高まり完売でした。

## 秋の収穫祭で交流会を

11月23日は恒例となった秋の収穫祭です。広々とした農場に家族会員27名と学生4名が参加してスタッフ6名で迎えて、大根・小松菜・ほうれん草・中島菜などの収穫をしたりライ麦・もち麦・シュンライ大麦の種まきもしました。

収穫の後は、これも恒例となった人参・ゴボウ・ジャガイモ・キノコ・さつま揚げ・豚肉入れたすいとんを作ります。味付けは手造りの味噌に自家製醤油を少し入れた特製です。皆が、美味しい美味しいと何杯もおかわりするほど好評でした。原木のベンチに座り焚火をしながら戴きました。

参加者には、各家族が自分たちで育てた有機・無農薬の大根や葉物野菜を持ち帰っていただき、作業は大変だけどその味は苦労を忘れさせてくれると充実感であふれていました。



## ライ麦パン作りと麦茶の焙煎と藁づと納豆作り

自分たちが育てた大豆と麦を使って加工したいという思いを一つひとつ実現しています。ライ麦パンは、ライ麦ストロー（茎）試作の副産品として出来た実を初めは家庭用粉碎機で粉にしてオーブンで焼きました。一昨年からは、千曲市の製穀所が手のかかるライ麦の製粉を引き受けて下さり、より沢山のライ麦粉を提供できるようになりました。そこで手軽なパン焼き機でクルミパンなどを焼き、会員に振る舞うことで、その美味しさを知り会員さんも焼き始めました。

そして、昨年からは農場の一角で焚火をしながら、大きな鉄窯で麦を焙煎し麦茶を作り、併せて納豆作りをはじめました。手ですぐった藁を折り曲げ両端をタコ糸で結んだ藁苞を湯煎して、冷めたら煮た大豆を藁苞の中に詰めて、発酵促進のために川中島納豆を二粒入れて持ち帰り、炬燵など温かい所で養生して出来上がり、大変好評です。

冬の農閑期に子供たちとかまどで薪を焚いたり、炭を熾して煮炊きをする光景は幸せそのものです。

## プロジェクトリーダーから一言

2019年の洪水被害に続くコロナ感染症にもめげずに頑張った3年間は、今後なにがあってもめげない礎となっています。チームの活動は地域に於ける生ごみ削減の啓蒙活動とキッズ生ごみ農園を軸とした生ごみ堆肥活用の実践です。

キッズ生ごみ農園の会員は毎年更新するのですが、3～4年継続すると子供が中学になり部活などで時間が取れないなどの理由でやめていく家族がいます。そんな中で今年も日本無線株が10人分の家族会員に登録し、参加する家族は変わっても活動を定着して支えてくれています。また、信大工学部の地域環境演習の学生が参加することで、若者の澆漑とした息吹に元気をもらっています。

住民自治協議会主催の生ごみ減量講座を安茂里と若槻地区でそれぞれ開き、朝市やフェスタに参加して会のPRと野菜販売をして地域との結びつきを続けています。

また、市内のこども食堂や子供支援の「あもはぐ」に声を掛け、生ごみを大根などの野菜と交換し地域交流を広げつつあります。



リーダー  
河西 弘明



# 松代オオムラサキの里



## 国蝶オオムラサキの里の環境保全に取り組んでいます。



私たちチームは、令和4年度活動としてオオムラサキをはじめとする様々なチョウの飛翔乱舞する事を夢見て生息環境の保全・整備に取り組みました。



主な私たちの活動を紹介します

### ① オオムラサキ観察会開催 (小学校/一般)



松代地域の小学校6校が授業の一環としてオオムラサキの観察に訪れました。里山遊びとしてエノキの実を使った「えのみ鉄砲」も楽しみました。

一般市民対象の観察会には約150名の参加者があり、幼虫・蛹・成虫を観察し、感嘆の声があちこちから聞こえました。



### ② 2棟目のオオムラサキの飼育ハウスの制作

オオムラサキの飼育環境を改善するため、大きいサイズのハウスを制作しました。

ハウス内にオオムラサキの幼虫の食草となるエノキを植え、オオムラサキの飼育を始めました。



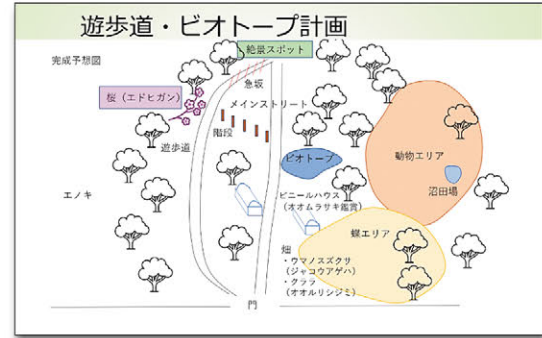




### ③ 信州大学研修生受け入れ

信州大学の地域環境演習から4名が参加されて、幼虫の飼育やオオムラサキの里に作る遊歩道とビオトープの設計に協力していただきました。

遊歩道とビオトープは次年度に制作し、活用していきたいと思います。



### ④ 小学校でのオオムラサキ幼虫の飼育

松代町内の5つの小学校で、エノキの木をネットで覆い観察ハウスを作りました。そこに幼虫を放し、小学校でオオムラサキの成長を観察ができるようになりました。

### ⑤ センサーカメラによる動物の生息調査



園内にセンサーカメラを設置し、動物の生息調査をしています。シカやツキノワグマ(左写真)のほか、イノシシ、タヌキ、キツネ、テン、アナグマ、カモシカなど、多くの動物をカメラが捉えています。

### プロジェクトリーダーから一言

### “オオムラサキの里・竹ノ入について思う”

私達「松代オオムラサキの里」はプロジェクト名を「小生物の育成環境保全PJ」から変更しました。活動内容は変わらずオオムラサキの保護活動をしています。活動を始めた9年前に比べオオムラサキの発生が減少ぎみでしたが、ここ数年は回復傾向にあります。しかしまだ満足するにはほど遠い状態です。私達はどのように自然に接し、オオムラサキを増やすにはどのようにすべきか？ オオムラサキが「竹ノ入」の空に乱舞する姿を夢見ながら、会員の皆さんや一般市民の方々の知恵や情報を頼りに前に進み、生育環境の整った「オオムラサキの里」を次世代に引き渡したいと思っています。



リーダー 杉山 茂樹





## 絶滅危惧種ゴマシジミの保護

私たちチームは、この活動を始めて7年目です。  
 雨の多い年、気温が上がらず花の咲く時期が遅い年など、  
 様々に変化する自然環境とそれから受ける生態系にどのよ  
 うな変化が起きるのか観察してきました。  
 これらを記録に残し自然環境保護の重要性を次世代につ  
 なげていければと更なる活動の充実を図ります。



主な私たちの活動を紹介します

### ゴマシジミって何?

シジミチョウ科の草原に住む蝶で環境省のレッドリストの「絶滅危惧種 I A類」に指定されている。

現在県内では松本市奈川地区と長野市浅川地区にだけに生息し近い将来に絶滅する危険性が極めて高いため両地域とも保護活動に取り組んでいる。

蝶の大きさは開張40mmほどで薄黒い羽の表面には青い鱗粉がキラキラと輝いている。羽の白っぽい裏面には名前の通り黒のゴマ模様が点々とみられる。

生態系は食草のワレモコウとクシケ蟻とのトライアングルの関係にあり、非常に興味深い。

成虫はワレモコウの花に産卵し、そこで孵化した幼虫が成長して地面に降り、クシケ蟻と出会う(ほかの蟻はダメ)幼虫は蟻の巣に運ばれ冬を過ごす。

幼虫は蟻の卵か蟻の幼虫を食べ成長、蟻の幼虫の出す体汁を求めて過ごしていると思われる。やがて暖かくなると幼虫は蟻の巣を離れ、朽ちた木などの下でサナギとなり7～8月に成虫となる。丁度その頃がワレモコウの花の咲く時期にあたる。



注：浅川地区生息地に2年に渡り大阪公立大学准教授上田氏の研究室でクシケ蟻調査に入るも(延べ人数31名)いまだ蟻の発見に至らず。多種蟻は6種ほど確認。



#### 保護活動 1)

#### 生息地域の整備「林の間伐、草原の草刈り」

※ 他の草との関連性の調査の為一部の草を残す刈り方

#### 保護活動 2)

#### 食草「ワレモコウ」の植栽

※ 生息地で収集した種子を育苗……………浅川小学校4年生(46人)

※ 現地植栽……………関係者による移植作業







### 保護活動 3) 「マニアによる密猟、乱獲防止、注意喚起」



- ※ 蝶の発生時期から産卵終了時期までのパトロール。(2人1組・延べ21名)
- ※ マニアによる密猟・乱獲防止と注意喚起看板設置。
- ※ 防犯カメラの設置。
- ※ 「がんばれ! ゴマシジミ」物語の紙芝居上演による勉強会と現地での説明会



**密猟者は5年以下の懲役又は500万円以下の罰金に!**



**ゴマシジミは環境省のレッドリスト  
絶滅危惧種 1Aに指定されていて  
絶滅寸前の貴重な蝶です!**



**ゴマシジミの最大の天敵は密猟者です**

#### 浅川地域あげてのゴマシジミの保護育成活動



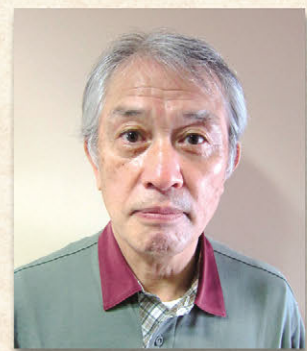
**長野市浅川地区住民自治協議会  
まちづくり委員会・ゴマシジミ保護育成チーム**

制作 北條昭吾

### プロジェクト事務局から一言

浅川まちづくり計画に位置している「ゴマシジミの保護・育成」をとおして、里山の整備、自然環境の保全の大切さを学び、浅川の特徴である中山間地と平野部の融合を徐々に深め、また子ども達からお年寄りまでの交流を図りながら、次世代への財産として繋がればと考えています。

今後も生息環境の観察とゴマシジミの生態系の研究にいつそう取り組み、地元の資産として多くの人達から感心を持ってもらうよう、継続性のある活動を目指したいと思っています。



事務局 下村 守昭



# 田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト



## 里山の保全＝さくら公園作り に取り組みました

令和4年6月から令和5年5月までの活動で、田中桜公園の維持管理活動に取り組みました。



主な私たちの活動を紹介します

コロナ禍は一応終了したとはいえ、まだまだ私どもの周辺では収まっているとは思えない状況が続きました。そのため私どもの活動も高齢者が多い中で維持管理活動中心の取り組みをしました。

大きなイベントは差し控えましたが、自粛疲れのストレスがたまり、健康には良くない。気分晴らして桜公園祭りを行おうと、集合は避け、恒例の豚汁は昨年に続きやめるかたちでしたが、気持ちよい天気の中で、桜のつぼみに、開花を待ち遠しく思いながら、田中桜公園からの絶品眺望を楽しみながら、コロナストレスを吹き飛ばす良い体験となりました。



4月4日  
今年は早い！  
桜は満開！



←左の写真は、桜公園整備前の現地の画像です。  
原野の状態でした。





# 田中さくら公園 お花見 & 手入れ

令和5年  
桜公園祭り  
4/16  
9時30分開始  
田中桜公園  
12時まで



2023/04/04 のホットな写真

**EVENT** さくらに会いに行きましょう。  
名札も壊れています。修理をしましょう。  
【ボランティア募集】飛び入り歓迎！  
綿拾係、竹切り・竹炭づくり

**桜...今、見ごろ中の見頃。**桜祭りを待たずに二見をおすすめします。8日9日が観覧かも。  
ローソンからも見えます。  
いろいろなタイプの桜が咲いて来ますので、毎日が見頃です。風景とともに楽しみましょう。  
**ですが、今回の桜公園祭りは16日。**  
“花後の楽しみ”？  
ご友人・ご家族で**桜茶・甘酒を飲み**に、おいでなして。ピクニック気分に参加を！お酒・お弁当・飲物のご用意は各自各グループにての好みのスタイルで。  
晴れていれば、太陽熱クッカーポップコーン、お茶・コーヒー、曇り空でも『わた給』をどうぞ。  
新規登場は、「桜茶」と『甘酒』。“桜の下で桜茶を”なんていい気分  
整備作業に参加できる方は、竹を引くノコギリがあれば、ご持参いただけるとありがたいです。  
また、作業用手袋などあればご持参を

会員募集中 希望者は関係者にお伝えください

2023年4月16日の

## 桜祭り

作業を終えて、一休み。この時間がコロナ禍で地域の様々な行事が昨年同様、割愛される中での貴重な語らいのひとつときを生みました。



### プロジェクトリーダーから一言

環境パートナーシップ会議に参加させていただき、はや5年。

コロナ禍の中で、なかなか全員集まったの作業や楽しみ毎が組めない日々でしたが、今年は何か希望の膨らむ春を迎えることが出来ました。さらに希望を持ち、夢を描いて子どもたちからご老人まで、またご家族でと里山に親しむプロジェクトを進めたいと思います。



リーダー 上條 補喜



信州大学工学部

令和4年度  
「地域環境演習」に  
おける活動報告



信州大学工学部建築学科  
教授 高村 秀紀

信州大学工学部では平成19年度より地域環境演習を全学科の2～4年生を対象に開講しています。授業のねらいは自然環境に配慮した環境マインドを習得し、環境調和型社会を目指した工学的な取り組みを継続的に行うことができるようになることです。また、PDCAサイクルを機能させて行動できる人材育成を目指しています。この授業では長野市とながの環境パートナーシップ会議の全面的なご協力のもと、学生がながの環境パートナーシップ会議の各プロジェクトチームの一員として環境保全活動を行います。地域環境演習Ⅰは前期（4月から8月）、地域環境演習Ⅱは後期（9月から2月）に開講しています。前期の地域環境演習Ⅰで活動し、引き続き活動を希望する場合は、後期に地域環境演習Ⅱで活動を行うことができます。

地域環境演習Ⅰでは①生ごみ削減・再生利用プロジェクト（5名）、②松代オオムラサキの里（小生物の育成環境保全）（3名）の2つのプロジェクトチームに8名の学生が参加しました。以下に活動内容を記載します。

## 生ごみ削減・再生利用プロジェクト

生ごみからたい肥を作成し、そのたい肥で野菜を作り収穫することに取り組みました。主な活動は以下の通りです。

- ①毎月開催される定例会への参加
- ②畑での作業  
（豆類種まき、枝豆栽培のためのネット掛け、麦刈り、ライ麦、ジャガイモの収穫、枝豆・夏野菜の収穫）
- ③生ごみ減量講座への参加（段ボールたい肥の作り方について学ぶ）



▲畑での作業風景



▲ライムギの収穫の様子



参加した学生からは次のような感想がありました。畑での体験は今まで経験したことなかった本格的な農作業を行うことができ、自身にとって良い経験となった。野菜を作る大変さが身に染みて分かったので、今後は野菜を作ってくださいる方たちに感謝しながら、野菜やお米などを食べようと思った。農薬不使用、肥料は食品の非可食部分由来である有機栽培について学ぶことが出来た。食品の非可食部分を肥料に用いる方法が食品ロスの突破口の1つになり得ると感じた。ミミズコンポストや段ボールコンポストによって生ゴミが分解されて肥料になり、その肥料を野菜を育てるのに使い、育てた野菜の食べられない部分は再びコンポストを利用してまた肥料へ、という循環により生ゴミが出ないという理想的な農業が、今後、持続可能な社会を実現する上でとても重要だと感じた。

## 松代オオムラサキの里（小生物の育成環境保全）プロジェクト

オオムラサキの観察や、観察場所周辺の草刈り、観察会での活動報告、遊歩道の計画立案などを行いました。参加した学生からは次のような感想がありました。

オオムラサキについては、害虫などは入らないようにしているはずだが、ビニールハウスの中に入れていたオオムラサキの幼虫が全滅してしまっていた。この原因はまだ分かっていなく、自然を理解し、それを保護するためには今の知識だけではなく、自らたくさんのことを試していく必要があると感じた。草刈り機を用いての草刈りというような普段ではめったに行わない作業ができて非常に良い経験ができた。普段は接することが少ない上の世代の方々と一緒に活動し、様々な話を伺えたのはとても貴重な経験になった。オオムラサキの里が継続的に活動できるように、ながの環境パートナーシップ会議を通して私たちのような若い世代が活動に参加していくべきである。



▲ネット付け替えの様子



▲一般観察会での活動報告の様子

参加した学生の感想からとても有意義な活動であったことが分かりました。プロジェクトチームに加えて頂き活動することは労力と時間を要します。にもかかわらず、選択してやり遂げる受講生は、この活動の過程で沢山の事を学んでいくはずで。今後も、長野市環境部環境保全温暖化対策課とながの環境パートナーシップ会議のご協力を得て地域環境演習を続けて行きたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。







# 令和4年度 公開学習会



**開催日時** 令和5年2月26日(日) 14:00~16:15

**会場** 長野市ふれあい福祉センター 5階大会議室

ながの環境パートナーシップ会議では、年々活動が縮小している現状を踏まえ、令和4年度は、パートナーシップで環境活動することを改めて考える機会として、公開学習会を開催しました。本会議が主催するイベントとしては4年ぶりの対面開催となりました。

本会議が今後も長野市の環境活動のプラットフォームとして発展していくためには、事業者や若い世代の皆さんとの活動が不可欠です。そこで事例発表として、日本無線株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、長野県松代高等学校からスポGOMI甲子園全国大会に出場された「オラ東京さ、いぐだ」の皆さんに、それぞれの環境に関する活動内容をご報告いただきました。普段の自分たちの活動とは異なるアプローチについて、参加者は熱心に耳を傾けていました。

併せて本会議の4つのプロジェクトチームによる活動報告も実施しました。

その後は、参加者が口の字型に配置した椅子に座り、意見交換会を行いました。パートナーシップ会議はなぜ縮小してしまったのか、どうすれば盛り上がるのか…各自が意見を出し合い、予定時間を超過するほど白熱した議論が行われました。

意見交換の場では、事務局から今後のパートナーシップ会議改革案も提示されました。当日出された意見を踏まえながら、令和5年度以降、様々な改革に取り組んでいく予定です。



▲事例発表①  
日本無線株式会社 坂本隆彦様



▲事例発表②  
東京海上日動火災保険株式会社 田原伸洋様



▲プロジェクトチームによる活動報告



▲意見交換会の様子



# ★ ながの環境パートナーシップ会議が 変わります！

令和5年6月29日（木）に開催された通常総会にて「アジェンダ21ながの一環境行動計画—2023」が策定されました。新アジェンダでは、令和元年東日本台風災害や新型コロナウイルス感染症などで、環境活動を取り巻く状況が一変したことを踏まえ、本会議が「長野市の環境活動のプラットフォーム」であり続けるために、改革に取り組むと定めています。

そこで令和5年度から実施する新規事業を紹介します。

## 1 18歳以下 & 学生の会費を無料化

18歳以下の未成年者ならびに大学、短大等の学生の皆さんの会費が無料となります。

既存のプロジェクトチームへの若い世代の加入をこれまで以上に促進することはもちろんですが、学生団体やサークル等で独自に活動に取り組んでいる中高生や大学生が加入することで、ボランティア保険への加入や後述の情報発信機能といったメリットを活用していただきたいと考えています。

## 2 賛助会員制度の創設

企業・団体会員の移行を念頭に、既存のバナー広告制度を発展させた新たに賛助会員制度を創設します。環境保全の取り組みをアピールしたい企業と後述の発信機能をつながることで、本会議の「プラットフォーム」機能を強化します。

若い世代の皆さんや企業・団体の活動とつながり、長野市全体の環境活動の情報拠点となることで、様々なつながりが生まれ、より充実した活動が広がることを目指します。

## 3 ホームページ刷新 & X (旧Twitter) 運用開始

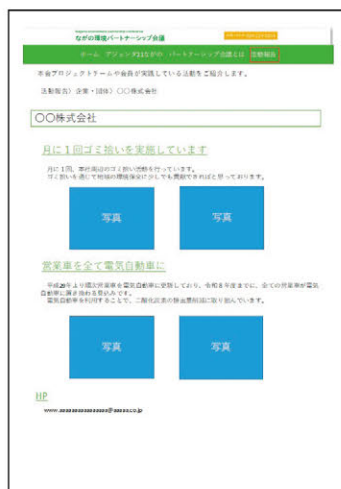
本会議のホームページをリニューアルし、情報発信機能を強化します。

あわせてSNSによる発信を強化するため、現在のFacebookからX (旧Twitter) へ移行します。

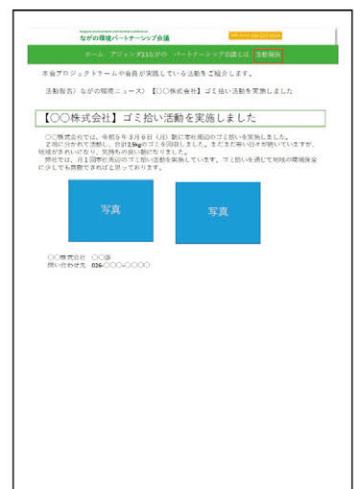
◆ホームページリニューアル内容 (画像、内容はイメージです。実際とは異なる場合があります。)



▲プロジェクトチームの情報発信を強化します。



▲新たに法人・団体会員の環境活動を発信します。



▲「ながの環境ニュース」で最新の活動情報を発信します。

**ながの環境パートナーシップ会議**

**公式HP**  
http://www.nagano-ep.net/



**公式X (旧Twitter)**  
@nagano\_ep







事業者の皆さんと連携強化

## プロジェクトサポーター制度の紹介

### ●プロジェクトサポーター制度とは…

事業者の参画をより一層促していくため、プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者が、直接、人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動の展開を図ることを目的に、平成28年度に当制度を創設しました。

長野市委託浄掃事業協同組合



生ごみ削減・再生利用

コマキ工業株式会社



松代オオムラサキの里

株式会社公害技術センター



生態系豊かな、水に親しめる川づくり  
(水環境保全)

プロジェクトサポーター

賛助会員

# 大募集中!

ながの環境パートナーシップ会議では、各プロジェクトに直接支援いただく「プロジェクトサポーター」、ならびに本会議の「賛助会員」となってもらえる事業者を募集しています。登録いただいた事業者については、令和5年度以降の「手をむすんで」や本会議ホームページや公式Xにて、掲載・周知をさせていただきます。詳細はながの環境パートナーシップ会議事務局までお問い合わせください。





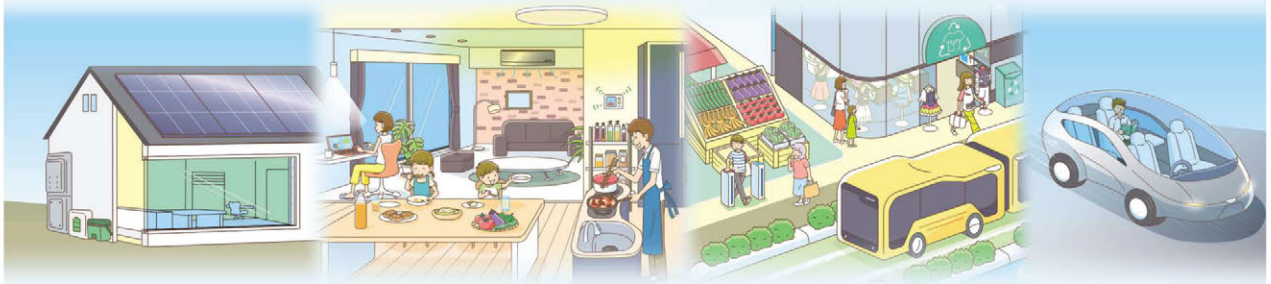
脱炭素につながる **新しい豊かな暮らし** を創る **国民運動**

# デコ活

## くらしの中のエコろがけ

「デコ活」は、暮らしを豊かにし、CO<sub>2</sub>を減らす環境にやさしいアクションです。

(De・CO<sub>2</sub>) (Eco)



### デコ活アクション

＼まずはここから／

デ

電気も省エネ  
断熱住宅

コ

こだわる楽しさ  
エコグッズ

カ

感謝の心  
食べ残しゼロ

ツ

つながるオフィス  
テレワーク

2050年カーボンニュートラル及び2030年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするため、新しい国民運動「デコ活」を展開中です。

脱炭素につながる将来の豊かな暮らしの全体像・絵姿をご紹介するとともに、国・自治体・企業・団体等で共に、国民・消費者の新しい暮らしを後押しします。

 **デコ活**  
くらしの中のエコろがけ



長野市地球温暖化防止活動推進センター

〒380-0835長野市新田町1513-2(82プラザ長野)  
TEL 026-237-6681 FAX 026-237-6690  
URL <https://www.eco-mame.net/>





団体・企業も

# 新会員募集中!!

入会のお申し込み・お問い合わせ先

## ながの環境パートナーシップ会議 事務局

長野市環境保全温暖化対策課内  
〒380-8512  
長野市大字鶴賀緑町1613番地  
TEL.026-224-5034  
FAX.026-224-5108  
E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp  
<http://www.nagano-ep.net/>

こちらまで  
どうぞ。



イメージキャラクター **キラピー**

山の緑も川の水も空の星も人の心も、  
長野市中の環境も人も未来もキラキラと輝き、  
生き生きと暮らせるように、という願いが込められています。

入会申込書は、ながの環境パートナーシップ  
会議事務局に用意してあります。また、本会  
のホームページからもダウンロードできます。  
必要事項をご記入の上、事務局まで郵送、  
ファックス、電子メールのいずれかでお送りく  
ださい。

いつでも入会できます。会員になって、一緒に環境保全活動を進めましょう(年会費一口500円)。

私たちは、  
ながの環境  
パートナーシップ会議  
の活動を **応援**  
しています

### 長野市地球温暖化防止活動推進センター

〒380-0835  
長野市新田町1513-2  
(82プラザ長野)  
TEL 026-237-6681  
FAX 026-237-6690  
E-mail eco-mame@dia.janis.or.jp  
<https://www.eco-mame.net/>



ながの環境パートナーシップ会議  
令和4年度活動成果報告書

「手をむすんで」

令和6年2月発行

編集発行：ながの環境パートナーシップ会議、長野市地球温暖化防止活動推進センター  
印刷・製本：中外印刷株式会社



PRINTED WITH  
SOY INK

環境保全のため、再生紙および大豆インクを使用しています